

I 組織の使命

観光部のミッション（使命）は、

「函館市観光基本計画」に掲げる基本理念「観光の価値を高め、函館を照らす」を実現することです。

来函観光客の満足度を向上させるため、提供するサービスやコンテンツの質を高め、函館観光全体の消費額の向上を図るとともに、観光消費の経済波及効果で市民生活を豊かにします。

II 組織の基本方針

○ 次の4項目を基本方針として、取り組みを進めてまいります。

- 1 質の高い観光により観光消費額を向上させる
- 2 観光の繁閑差を是正する
- 3 函館観光を盛り上げる人を増やす
- 4 観光を通じて函館が潤う地域づくりを進め、観光への市民理解を促進する

III 年度評価 総評

観光基本計画において令和10年度(2028年度)の達成を目標としていた繁閑差是正の目標を前倒しで達成するなど、組織の基本方針に基づき、各種施策を着実に進めました。

1. 質の高い観光により観光消費額を向上させる

近隣自治体等との連携を深め、新函館北斗駅広域観光推進協議会における「はこだて旅するパスポート」電子チケット版の発売や、北海道新幹線開業10周年を契機とした首都圏での観光PRを実施したほか、渡島檜山圏域における延宿泊数年間1,000万人泊の達成に向けた観光情報の発信などを行いました。

また、イーストジャパン・キャンペーン推進協議会において、欧米からの新幹線利用F I T層（個人旅行者）を東京から函館に誘導する観光ルートの造成・販売や、アメリカ・ロサンゼルスでの現地プロモーションを実施し、米国市場からの誘客および観光消費額の増加を図るなど、インバウンド増加に向けた取り組みを行いました。

さらに、M I C E誘致に向けた商談会への参加や大学訪問などのPR活動を実施するとともに、ロケ地マップを作成したほか、函館山混雑状況配信システムの機能拡充、八幡坂におけるマナー啓発、宿泊施設と連携した避難訓練の実施により、観光客の安全・安心の確保に向けた受入体制の強化を図りました。

2. 観光の繁閑差を是正する

台湾やベトナムでの旅行博において、旅行会社へのセールスコール等を実施するとともに、台湾に対しては、旅行会社と連携して秋冬コンテンツの販売促進PRを実施し、タイに対しては旅行会社を招請して函館へのツアー商品造成および販売を行いました。

また、「はこだてグルメサーカス」を「グルメワンダーパーク函館」としてリニューアル開催し、北海道新幹線札幌延伸沿線地域との連携強化や新たな地域からの出店誘致を図ったほか、MOMI-Gフェスタにおける新たな演出の展開や「はこだて駅前・大門イルミネーション」の実施により、秋冬イベントの魅力向上と一体的な賑わいの創出を図りました。

さらに、閑散期である10月以降に教育旅行の催行が可能な私立高校をメインターゲットとして、関東・東北エリアの商談会で本市の教育旅行のプロモーションを実施しました。

3. 函館観光を盛り上げる人を増やす

函館および函館近郊で活躍するアドベンチャートラベルに係るガイド活動について、市公式観光情報サイト「はこぶら」で情報発信を行ったほか、函館観光に携わるガイド人材の役割や魅力に対する理解促進と関心喚起のため、観光ガイドの役割やキャリア形成の一例を紹介するセミナーを開催し、78名の参加がありました。

また、誰もが函館の魅力を発信することができる「函館への愛を語ろう！#ハコラブ」事業において、2,500件を超える投稿があるなど、SNSを活用して市民が函館の魅力を再発見できる環境づくりを進めたほか、更なる投稿件数の増加に向けて、市民向けのカメラ講習会や観光客向けのフォトウォークなどを実施しました。

4. 観光を通じて函館が潤う地域づくりを進め、観光への市民理解を促進する

出前講座などにより、函館における観光の重要性や地域経済への波及効果等について周知を図ることで、観光に対する市民理解の促進につなげました。

5. その他、観光振興を図るうえで必要な取り組み

宿泊税の円滑な課税開始に向け、宿泊事業者に対する制度周知やポスター等の配布を行うとともに、「函館市の宿泊税の考え方について」に基づき、観光関連団体や関係部局との調整を重ねながら、令和8年度(2026年度)の宿泊税充当事業を整理しました。

区分	担当課	評価	評価の説明
1 質の高い観光により観光消費額を向上させる			
(1) 地域との連携を深め函館市内の宿泊日数の増加を図る			
<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の自治体等との連携を深め、観光資源を効果的に発信するとともに、函館を拠点とした魅力ある観光プログラムの造成を図ることで、函館市内の宿泊日数の増加に繋がります。 	観光推進課	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新函館北斗駅広域観光推進協議会では、10月から「はこだて旅するパスポート」の電子チケット版を発売し、紙切符版との併用により近郊エリアの周遊促進を図ったほか、新幹線沿線地域であるJR大宮駅で観光PRを行った。 ・北海道新幹線開業10周年事業では、JR東日本、JR北海道、青森県、渡島総合振興局などと連携し、首都圏で観光PRを行い、観光客誘致を行ったほか、市内に10周年フラッグを掲出し地元の賑わいを創出した。 ・南北海道市町村連絡協議会において、「渡島檜山圏域の連携による広域観光圏形成に関する決議」が採択されたことから、圏域における延宿泊日数年間1,000万人泊達成に向け、圏域の観光情報の発信などを行った。
(2) 富裕層の誘客に向けた観光プログラムの造成、磨き上げなどを進める			
<ul style="list-style-type: none"> ・富裕層をはじめとする旅行者のニーズに対応するために、函館の自然環境や文化、歴史などを活用した付加価値が高い観光コンテンツづくりを推進し、プロモーションを行っていきます。 	観光推進課 コンテンツ 開発担当	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中国富裕層向け旅行プロモーション事業として、これまでに造成した観光コンテンツの磨き上げを行ったほか、今後の商談会等で活用できる富裕層向けコンテンツ紹介資料および動画を作成した。 ・函館、道南の自然や文化・歴史の魅力を活かしたアドベンチャートラベルのプロモーションを目的に、道南エリアのモデルルートや体験コンテンツを紹介するパンフレットを制作した。 ・函館の名産物であるイカの競りや函館水産物地方卸売市場内の見学を通じ、函館の基幹産業である水産物の魅力を体感できる「イカの競り見学ツアー」を商品化した。
(3) 欧米向けプロモーションの強化・消費額の高い外国人観光客の誘客			
<ul style="list-style-type: none"> ・欧米からの訪日外国人観光客の誘致を強化するほか、東京から北関東、東北を経て、本市へ至る周遊ルートを確認することで、消費単価の高い訪日外国人観光客の誘客を目指し、市内の観光消費額の向上に繋がります。 	観光推進課	B	<ul style="list-style-type: none"> ・JR東日本、JR北海道、東北観光推進機構と連携して設立した「イーストジャパン・キャンペーン推進協議会」において、欧米からの新幹線を利用するFIT層（個人旅行者）を東京から東北・函館に向かわせる観光ルートの造成および販売、PR用資料・動画の作成、各所への配布・放映を行ったほか、アメリカ・ロサンゼルスを訪問し、関係各所への訪問および現地プロモーションを実施した。

(4) 観光消費の機会拡大に向けた適切な情報発信

・函館市内における観光消費機会の拡大に向けて、観光客の旅マエ、旅ナカ、旅アトの段階ごとに、ターゲットの特性に応じたツールを活用して効果的な情報発信に努めます。

観光推進課
コンテンツ
開発担当

B

・函館の認知度向上に向け、Instagramを活用し、函館で働く人々に焦点を当てたショート動画等による情報発信を継続的に実施した結果、30本の動画投稿で総再生回数17.8万回以上を記録するなど、本市への関心喚起を図った。

・旅マエ、旅ナカにおいては観光パンフレットや市公式観光情報サイト「はこぶら」、市公式SNSによる情報発信を行い、観光消費機会の拡大を図った。

・湯の川温泉エリアの魅力や楽しみ方に興味・関心がある顧客層の旅行需要を喚起させるショート動画を作成し、情報発信を行った。

(5) 函館観光の利便性を高める取組み

・市内の観光スポットにおけるWi-Fi環境の提供を引き続き行うとともに、インバウンド向けローカルガイド人材の育成や、函館山の混雑解消に向けた取り組みを進めるなど、受入環境の整備を図り、訪日外国人観光客等の満足度向上を図ります。

観光総務課
コンテンツ
開発担当

A

・受入環境の整備として、HAKODATE FREE Wi-Fi環境の管理運営を継続して実施したほか、観光駐車場におけるキャッシュレス決済導入に向けた準備を進め、利用者の利便性向上と混雑緩和に資する環境整備を進めた。

・函館山の混雑解消に向け、函館山混雑状況配信システムに、飲食店や周辺観光スポットであるライトアップ施設、八幡坂の混雑状況の配信を追加するなど、情報発信の充実を図り、ロープウェイ利用者の約5割が閲覧していると推計されるなど、混雑情報の取得手段として広く活用された。

・八幡坂においては、マナー違反の実態調査およびマナー啓発を目的にスタッフによる定期巡回を実施し、5,335人に対して啓発を行ったほか、その結果を踏まえ、関係者と今後の取り組みの方向性を共有した。

(6) 北海道新幹線延伸を見据えた広域連携

・北海道新幹線札幌延伸を見据え、沿線自治体等との連携を図ります。

観光推進課

B

・延伸予定の沿線地域と連携することで誘客の強化に取り組むこととし、倶知安町において情報交換会を開催した。

(7) 多様なニーズに対応したコンテンツの推進

・歴史や映画、アニメの聖地巡礼などといった一定のファン層に支えられている付加価値の高いコンテンツの推進を図ります。

イベント・
FC担当
コンテンツ
開発担当

B

・多くのテレビ番組、CMなどの撮影支援に加え、積極的なロケーションアピールにより、2件の映画のロケ地として採用された。

・ロケ地めぐりを目的とする観光誘客を図るため、ロケ地マップを作成し、全国の上映劇場や市内の観光施設などに設置した。

・「函館×ゴールデンカムイ」特別イベント実行委員会に参画し、令和8年度(2026年度)のイベント実施に向け、イベントの実施内容や運営体制を確立した。

(8) MICE誘致

<ul style="list-style-type: none">・ MICE誘致に向けて、観光地として高い評価を得ている観光資源を十分に活用しPRするとともに、エクスカージョンの充実に力を入れるなど、質の高い受入環境の整備を進め、さらなる誘致に繋げていきます。	観光推進課	B	<ul style="list-style-type: none">・ 道MICE誘致推進協議会主催の商談会や国際MICEエキスポ（IME）への参加や過去開催実績のある大学への訪問誘致活動等の積極的なPR活動を実施した結果、数年後に本市での開催が有望な大型案件を複数獲得した。・ 併せて、全国各地で学会の開催サポートを実施するコンベンション運営会社へ個別訪問を行い、本市の情報提供を行うとともに、MICE開催に係る函館市に対する要望などについて情報収集を行った。・ MICEの更なる誘致に向けて、MICE開催事業者にとって必要な情報を掲載する特設ページや、学会規模に応じた会場などのモデルパッケージプランの作成に向けて準備を進めた。
--	-------	---	--

(9) 誰もが安心して訪れる観光地を目指す

<ul style="list-style-type: none">・ ユニバーサルデザイン観光（UD観光）に関する情報を収集し、市内の事業者へ情報発信することでUD観光を推進するとともに、観光客への情報提供のあり方について検討します。	観光総務課	B	<ul style="list-style-type: none">・ 観光施設等のバリアフリー対応状況調査、バリアフリー対応ノウハウ習得セミナーの開催、ユニバーサルツーリズムのモデルコース造成の実施に向けた準備を進めた。・ 宿泊施設と連携した避難訓練の実施により、観光客の安全・安心の確保に向けた受入体制の強化を図った。
--	-------	---	--

2 観光の繁閑差を是正する

(1) 増加する訪日外国人観光客需要の取り込み

<ul style="list-style-type: none">・ 中国、台湾、東南アジア諸国など、雪への憧れや興味が強い国や地域への冬のコンテンツ提案や、秋冬の見どころやイベントの情報発信を行い、閑散期の誘客を推進します。	観光推進課	A	<ul style="list-style-type: none">・ 台湾（台北ITF、高雄KTF）やベトナム（ジャパンベトナムフェスティバル）での旅行博において、BtoC向けPRや旅行会社へのセールスコールを実施するとともに、商談会に参加した。・ また、台湾に対しては旅行会社と連携して秋冬コンテンツの販売促進PRを実施したほか、タイに対しては旅行会社を招請し、函館へのツアー商品造成および販売を行った。・ 令和7年(2025年)6月公表の来函観光入込客数推計において、令和6年度(2024年度)下期は、過去最高の来函外国人宿泊客数を記録するとともに、観光基本計画において掲げる繁閑差是正の目標を前倒しで達成した。
--	-------	---	---

(2) 魅力的な秋・冬のイベントやコンテンツの創出

・季節のみに頼ったイベントやコンテンツだけではなく、函館独自の観光資源や他のコンテンツなどと組み合わせるなど、誘客効果の高い秋・冬のイベント、コンテンツを検討します。

イベント・
FC担当

B

- ・「はこだてグルメサーカス」を「グルメワンダーパーク函館」としてリニューアル開催し、北海道新幹線札幌延伸沿線地域との連携を強化するとともに、新たな地域からの出店を誘致するなど、イベントの魅力向上と誘客効果の向上を図った。
- ・MOMI-Gフェスタにおいて、試験的にカラーLED照明を導入し、紅葉前の樹木をライトアップするなど、新たな魅力創出を目的とした演出を展開し、来場者の関心を喚起するとともに誘客効果の向上を図った。
- ・はこだてルミポップの資材を活用し、これまで実施していた「はこだて冬フェスティバル」の「はこだて駅前イルミネーション」を、「はこだて駅前・大門イルミネーション」として実施することで、函館駅前から大門地区にかけて一体的に賑わいを創出した。
- ・（仮称）はこだてウィンターイルミネーションの開催に向け、関係者との協議・調整を重ねながら、事業内容や実施手法の整理を進め、冬季の新たな誘客コンテンツの創出に向けた方向性を取りまとめ、実施に向けた準備を進めた。

(3) 教育旅行誘致による繁閑差の是正

・函館観光の閑散期でもある10月～翌3月の教育旅行需要の掘り起こしを進めると同時に、歴史や文化など、教育旅行に適したコンテンツの拡充を進めます。

観光推進課

B

- ・閑散期である10月以降に教育旅行の催行が可能な私立高校をメインターゲットに関東・東北エリアの商談会にて本市の教育旅行のプロモーションを実施した。
- ・また、冬季の教育旅行を検討する学校教員を対象に、実際のモデルコースの体験や市内事業者との意見交換などを内容とするFAMツアーの実施に向けた準備を進めるなど、冬季教育旅行の誘致を推進した。

3 函館観光を盛り上げる人を増やす

(1) 函館市民による観光の取組みへの参画を促進する

・函館観光に携わる観光ガイドやボランティアなどの活動について情報発信を行います。

コンテンツ
開発担当

B

- ・函館および函館近郊で活躍するアドベンチャー・トラベルに係るガイド活動について、市公式観光情報サイト「はこぶら」で情報発信を行った。
- ・函館観光に携わるガイド人材の役割や魅力に対する理解促進と関心喚起のため、観光ガイドの役割やキャリア形成の一例を紹介するセミナーを開催し、78名の参加があった。

(2) 函館市民が函館の魅力を再発見できる環境づくりを進める

<ul style="list-style-type: none">誰もが函館の魅力を発信することが出来る、SNSを活用した新たな取り組みを実施するとともに、市民が函館観光に触れる機会を増やすための事業を検討します。	コンテンツ 開発担当	B	<ul style="list-style-type: none">誰もが函館の魅力を発信することができる「函館への愛を語ろう！#ハコラブ」事業において、2,500件を超える投稿があるなど、SNSを活用して、市民が函館の魅力を再発見できる環境づくりを進めた。また、更なる投稿件数の増加に向けて、市民向けのカメラ講習会や観光客向けのフォトウォークなどを実施した。
--	---------------	---	---

4 観光を通じて函館が潤う地域づくりを進め、観光への市民理解を促進する

(1) 観光の重要性の市民理解向上に向けた取り組み

<ul style="list-style-type: none">出前講座などの機会や様々な媒体を通じて、函館における観光の重要性について周知を図ります。	観光総務課	B	<ul style="list-style-type: none">市内高校や大学などで出前講座を開催し、函館における観光の重要性や地域経済への波及効果等について周知を図り、観光に対する理解促進につなげた。
--	-------	---	---

5 その他、観光振興を図るうえで必要な取り組み

<ul style="list-style-type: none">函館観光の持続的な発展に向け、地域として望ましい観光推進体制について検討します。	観光総務課	B	<ul style="list-style-type: none">観光地経営の視点に立った戦略的な観光施策を地域一体となって推進し、市と民間それぞれの強みを最大限発揮できる体制を構築するため、函館国際観光コンベンション協会と具体的な協議を進めた。
<ul style="list-style-type: none">計画の進捗管理、今後の施策の企画・立案に資する基礎的データの取得を目的とした各種調査を実施します。	観光総務課	B	<ul style="list-style-type: none">観光動向調査を完了し、調査結果を公表するとともに、観光基本計画の未設定であった目標値を設定するため、大学生に対し函館観光に対する意識を測るアンケートを追加で実施した。
<ul style="list-style-type: none">賑わいや活気に満ちた満足度の高いイベントを計画・実施するため、既存イベントの見直しや映画等のコンテンツの活用を進めるとともに、事業者や市民・観光客への情報発信に努めます。	イベント・ FC担当	B	<ul style="list-style-type: none">市内・近郊で開催される各種イベントが、本市への誘客手段等になるよう、満足度の高いイベントを計画・実施するため、市内のイベント主催者が集うミーティングを実施し、取り組みを継続的に展開するため、民間団体と協議し、民間主導での連携体制を確立した。各イベントの公式ホームページおよび函館市公式観光情報サイト「はこぶら」等において、イベント情報発信をするとともに、新聞広告、タブロイド配布を行い、PRに努めた。
<ul style="list-style-type: none">地域の観光振興の中核を担う函館国際観光コンベンション協会との連携強化のほか、市内外の関係機関等との情報交換・交流を図り、情報ネットワークの拡充・強化に努めます。	観光総務課	B	<ul style="list-style-type: none">函館国際観光コンベンション協会とは、日頃から観光プロモーションやイベント開催において連携して活動してきたほか、体制強化に向けた検討を進めた。箱館会などの観光関連事業者の会合に参加し、情報ネットワークの拡充・強化に努めた。

<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊税の課税開始後、宿泊者が円滑に宿泊税を納入できるよう、宿泊者への適切な周知や広報を実施するとともに、「函館市の宿泊税の考え方について」に基づき、観光関係団体の意見・要望を聞きながら、宿泊税を充当する具体的な事業の検討を進めます。 	<p>観光総務課</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊税の円滑な課税開始に向け、宿泊事業者に対して複数回にわたり制度周知を行うとともに、宿泊事業者が宿泊者への説明に活用するポスター等を作成し、市内全宿泊施設に配布した。 ・また、「函館市の宿泊税の考え方について」に基づき、宿泊税を充当する事業の立案方針を作成し、この方針を基に、観光関係団体や関係部局との調整を重ねながら、令和8年度(2026年度)の宿泊税充当事業を整理し、予算化した。
---	--------------	-----------------	---